



■ピカソ通信 2003年2月2日号 臨時増刊No.15■

～ エアープランツ大特集 ～

等幅フォントでご覧ください

☆ 本編(Vol.37)は届いていますか? 届いていない方はご一報ください ☆



■ 特集 ■ 「エアープランツ」を鑑賞しましょう。



◇■ エアープランツって?? ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇



ピカソのライブをはじめあれこれお世話になっている嘉多山信(かたやま
・まこと)さんのインストバンドです。

去年の春にみしま・カオルさんと偶然ライブが一緒になり、そのライブ
を見た人の間で評判になっていました。

今回は、メンバーの皆さんやライブの様子など紹介したいと思います。
なお、詳細は嘉多山さんのサイトのエアープランツのページも(^_^;

嘉多山信 公式サイト「こくぶんじ通信」

<http://members.jcom.home.ne.jp/ktymmkktgggg/>

-----*

◆バンド紹介



バイオリン、チェロ、ギターの3種類の弦楽器で構成されています。 ◇

バイオリンは阿部美緒さん。チェロは橋本歩さん。そしてギターは ◇

嘉多山信。それぞれ幅広くお仕事をされているようで、阿部さんは ◇

「nature blunt」、橋本さんは「GENER-LESS」、嘉多山さんは「喝! ◇

タルイバンド」と他のバンドもされているようです。

ものの見事にまるで違うバンドのようなんですね、これが。

(この後のインタビューで、別バンドの話が出てきます)

結成のいきさつですが、まず、嘉多山さんと阿部さんが「かの香織」
さんのサポートで出逢い、その後、河村隆一のコンサートツアーで
3人が同時に参加することになり。で、阿部さんと橋本さんが以前か
らの知り合いだったことから、「3人で何かやってみよう」という阿
部さんの一聲で結成と相成ったそうです。

ステージは、向かって左から阿部さん・嘉多山さん・橋本さんの順
に座ってます。「両手に花」という感じですね。

演奏の方も2人の女性をエスコートするかの如く嘉多山さんはリズム
を、阿部さんと橋本さんは代わる代わるメロディを奏でています。

◆レパートリー



詳細は上記のサイトに1月のライブで演奏した曲目が挙がっています ◇
ので、そちらを見ていただくこととして…。 ◇◇◇

ロックの名曲あり、シャンソンあり、勿論オリジナルありで、幅広
いジャンルの中から演奏されています。アレンジも絶妙で、元の曲
を知らない私なんかだと「元々こういう演奏なんじゃないか?」と思

えるほどです。

シャンソンはライブだと、ゲストが入ったりもするようです。以前、ピカソの森さんもゲストでアコーディオンを演奏されていました。オリジナル曲も非常に聞きやすいです。文字通りイージーリスニングですね。メンバーそれぞれが曲も作るようで、それがバンドの更なる幅となってくるのでは?と思います。

◇◇

◇■ そこで、インタビュー。 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇

◇◇

メンバーの嘉多山さんと阿部さんにインタビューを行いました。
嘉多山さんはピカソをはじめ、3日続けてライブという過密スケジュール。阿部さんもこの日の夕方、銀座でお仕事とのことでした。
(注:あくまで音楽の仕事です!!)
橋本さんは「GENER-LESS」のライブ当日のため、ご欠席でした。
お忙しい中、快くインタビューに応じてくださったお二方、本当にありがとうございました(^^)

◆バンド名の由来

◇◇◇

空気中の水分を葉から吸収して育つという“空中植物”。 ◇
「以前、CDを作ろうって話があった頃に、『今日、どうしてもバンド名を決めるといけない』という時になって、3人で考えた結果、 ◇
あゆみ(橋本さん)の発案で決まった」とのこと。
(ちなみに嘉多山さんは「コンクリート・ファイヤー」というバンド名を提案したものの、2人に全力で却下されたそうです)
空気中に音の種を巻こう、という意味を…

「こめたことにしておきましょう(笑)」

◆エアプラのサウンドって…

◇◇◇

嘉多山 「ギター的には結構、難しいんです。リズム楽器がある訳じゃないし」 ◇
阿部 「だから最初、ウッドベースを入れようという話もあったんですけど、敢えて辞めよう、と。 ◇
 ストイックに行ってみようかな、と」 ◇
嘉多山 「そうそう、3人でできるトコまでやってみようって感じで。
 だからある意味、修行的なバンドでもあるんですよ」 ◇
——この編成って、基本的に低い音が無いですよね?
阿部 「一番低い音がチェロで、ギターがベースがわりになったりとか」 ◇
——ギターのグルーヴ感がすごいですよね。
嘉多山 「ええ。グルーヴマスターとして頑張ります(笑)」 ◇

◆other works

◇

嘉多山さんは「the REDS」でギタリストデビューし(後に「Marquee Moon」と改名)、その後「G string」で活動。
現在は、レギュラーメンバーである「エアープランツ」の他、Piasa ◇◇◇
さんや絹子さん、カレイドスコープ、Acute Ballといったアーチス ◇
トのサポートをされています。
「Piasaはフレンチポップスでいい感じ、オススメ(^^)」だそうです。
また、「ASAYAN」出身の日韓出身2人組アイドル「route φ(るーと・

よん)」のデビュー曲を提供。

「レコーディングの1週間ぐらい前に関係者から呼び出されて『急な話だけど、2曲書いてくれ』って言われて」作ったとか。

阿部さんは「nature blunt」という別バンドで活動中。

バイオリンの阿部さん・キーボードの“ミューク”こと高橋英明さん・映像デザイナーの兼古昭彦さんによるユニット。

「nature blunt」の公式サイトで試聴できます(要Media Player)。

ちなみに、公開中の「Bird」は阿部さんの作曲。

「徹夜して、朦朧とした意識の中で作った(^_^;) そうで。

その他、一時期はアニソンの奥井亜紀さんのサポートもされていたそうです。

最近は「頭脳警察」のPANTAさんのステージにも参加されています。

=====

視覚的な空間創造。未知の癒しの世界をぜひ!

「nature blunt」 web site

<http://www.ne.jp/asahi/web/natureblunt/welcome.htm>

=====

◆ピカソには足を向けて寝られません…



嘉多山さんにとって、森さんとの出逢いは「the REDS」のサウンド
プロデューサーとしてでした。「最初は『怖い』って印象でした。 ◇

何ヶ月も打ち解けられなくて…(^_^;) ◇

その後、ピカソのシングル「太陽だけが知っていた」のレコーディ
ングに嘉多山さんが参加して、そこで後の2人と出逢って。 ◇◇◇

「純二さんはああいう性格なので(笑)、すごく親しみやすかった。

リーダーは『もしかしたら、怖いんじゃ?』って思いました(^_^;。
でも今となっては、3人ともすごく、やりやすいですよね。こっちも
気を遣わなくていいし。最初は僕、むちゃくちゃ緊張していたんで
すけど」

知らず知らずのうちに、打ち解けていたそうです。

「『the REDS』の時は自分にとって、プロのスタジオでレコーディ
ングするというの自体が初めてで、その時に居たのが森さんだった。
スタジオミュージシャンとして、バンドのメンバーに『初めまして』
と挨拶するという現場を初めて体験したのも、ピカソだったし。
そういう意味で自分のギタリスト人生は、ピカソから始まっている
所があるんですね」

阿部さんはまだ、森さん以外のピカソメンバーとはあまり話したことがないとのこと。

ただ、阿部さんが去年の4月、お茶の水のピカソライブを観に行った時、なんと自分の持ち物を会場に忘れてきてしまったそうで。

「そしたら、リーダーが自宅まで送ってくださったんです。しかも
『着払いでいいです』って言ったんですけど、元払いで送ってくだ
さって…あの時は本当に、失礼いたしました(^_^;)」
ちょっとといい話でした。

◆阿部さんがポップスを始めたきっかけ。



阿部 「普通にクラシックでバイオリンを始めて、普通の音大に行
って、音大の時にバンドの人達に逢ったりして、そこでポッ ◇

◇◇
嘉多山「グレちゃったんだよね」 ◇◇
阿部 「(笑)」 ◇
嘉多山「でもね、バイオリンで、即興演奏がパッとできる人って実は少ないので。クラシックは基本的に、譜面に忠実な世界だから。そういう意味で、阿部ちゃんは貴重な存在(^^)」

◆嘉多山さんはどうして「がっちゃん」なのか?

◇◇
「これには長い歴史があります…。 ◇◇◇
18歳の時、学校の寮で、隣の隣の隣の部屋の友達から ◇
『嘉多山君って、アニメのアラレちゃんに出て来る“がっちゃん” ◇
に似てるよね??』と言われて、その日からそいつに“がっちゃん” ◇
と呼ばれるようになった。以来21年間、ずっと」

◆がっちゃん走る。

◇◇
嘉多山さんとピカソの辻畠さんは「元陸上部」つながり。 ◇
しかも、2人とも長距離ランナーだった。 ◇◇
「以前、八王子の工学院でレコーディングをした時、目の前に400m ◇◇
のグラウンドがあって、リーダーと2人で『グラウンドだねぇー! ◇
走りたいね~!!(*^*)』とソワソワしました」

テレビの中継も見るものの、自分で走る方が好きだと。
「ある日、マラソン中継見てたら急に走りたくなって、府中の平和の森公園まで『わーーっ』って走りに行ったら、たまたまそこにドラムの河野さん(Rough Diamonds)が居て『がっちゃん♪』って声をかけられて、恥ずかしかった(^_^;)」ということがあったそうです。
「サングラス姿でジロジロ見るんですよ。最初、誰か分からなくて『誰~?』と思いながら走っていました」

好きな陸上選手は? とお聞きしたところ
「高校生の頃は瀬古とか好きだったけど…。あ、中山がいいなあ~。
中山が走るってんで、四谷に東京国際マラソンを見に行ったことあるんですよ」

◆今後の予定は?

◇◇
嘉多山さん曰く ◇
「本当は去年ぐらいにCDを作りたかったんだけど、3人のスケジュールが合わなくて、河村隆一の全国ツアーも始まっちゃったんで、後半はエアープランツ自体、あまり活動できなかった。 ◇◇◇
今年からまた、いろいろやりたいと思ってます」
——CDはメトロノームレコードから出るんでしょうか?
「できれば、そうなったらいいなーと思いつつ…。
でも、まずは音源を作らないと。森さんにも声をかけているし」

◇◇
◇■ ライブ風景 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇
◇◇

1月の10日に行われた「EG-Mode」に行ってだったので、その様子を。

対バン形式のライブだと、音楽系統からして前半にあるだろう? と踏んでいたのですが、予想通り2番手。1番手はメインバンドのプチ版だったので、

事実上トップと言ってもいいかも知れません。

嘉多山さんはジャージ、阿部さんと橋本さんはセーター…といったラフな服装で登場でした。

前に観たときは嘉多山さんが1人でMCをしていたのですが、今回は回り持ち。阿部さんのとてもたどたどしいMC、逆に非常に慣れた橋本さんのどちらも見ものでした。

普段はサポートばかりで、自分の前にマイクが声用にあることは少ないんでしょうね。嘉多山さんもちょっと危なげです。

演奏の方は慣れたもので、非常にすばらしかったです。

途中2曲ほどシャンソンがあったのですが、ゲストが2名参加されました。

パークッションとアコーディオン、そして歌声がプラスされました。

サポートの方は2月のライブでもご一緒なので、もしかしたらまた同じ光景がみられるかもしれません。

1曲辺りが長めなので、曲数の割には時間は長めです。

音もやわらかいのでゆったりと漫れました。

この後トリで、嘉多山さんがメンバーになっている別バンド「E.S.B.(エンリケ・スペシャルバンド)」の出番だったのですが、このステージにも時々、阿部さんと橋本さんが登場。エアープランツとは違って、サイレンス楽器を演奏していました。

嘉多山さんだけでなく、3人とも後ろに楽器が置かれる日が来るかもしれません。と次回を楽しみにしてしました。

懐古そうなんですもの、ほんと。



◇ next GIG ! がっちゃんPresents 「G-MODE」 ◇
◇ ◇



2月13日(木) 18:30開場 / 19:00開演 at 吉祥寺 Planet K
喝! タルイバンド / エアープランツ / Piasa / 絵ハガキ

嘉多山さんの知り合いミュージシャン大会です。
◇ 「絵ハガキ」は、ギタリストのCHIEさんが昔からの対バン仲間。 ◇
◇ あと3組は、嘉多山さんが参加します。 ◇
◆◇◇◇◆ ◇◇◇◆

◆■■■■◆
◆ ♪ ◆ ■ 編集後記 ■
◆■■■■◆

久しぶりのライター復活でございました。

今年はサイトの更新をするぞ! と心に決めてライブいっぱい見に行く所存です。
(鴉)

あれは、1年半ぐらい前だったでしょうか。

ある日たまたま、検索で、嘉多山さんが書いたリレーエッセイを見つけました。

「永遠」というタイトルのそれを読んで、もう、爆笑!....

いつもピカソのライブで、寡黙にギターを弾いておられる嘉多山さんの姿からは想像もつかない、面白い文章でした。

スタジオミュージシャン、サポートミュージシャンという方々に私が興味を感じる様になった、1つのきっかけだったと思います。

その嘉多山さんが“主役”になって結成したエアープランツ。

なかなか聴く機会が無かったのですが、今回のご縁でようやく、音を聴くこと

ができました。「この編成で、ここまでできるのかあ....」と驚かされています。「癒される」という評判も分かる気がします。
そうそう、あのエッセイが「こくぶんじ通信」に再掲されていますので、ぜひ
そちらも読んでみてください(^^) (ぎねね)

☆ 投稿・ご意見はこちらへ ☆

メール : picatsu@gn2.virtualave.net
フォーム : <http://www.saturn.sannet.ne.jp/picasso/form.html>

企画・制作 : プロジェクトペリカン
制作協力 : PROJECT PICASSO／メトロノームレコード様
登録・解除／バックナンバー <http://www.zero-city.com/picatsu/>
このメールマガジンは『まぐまぐ』から発行しています。

since 2000 :::: Picasso Newsmail All Rights Reserved.